



市政 ピックアップ

市では、「定住促進」や「交流人口拡大」などで市がさらに元気になるさまざまな取り組みを行っています。このコーナーでは、市が計画または実施しているその取り組みの中からピックアップして紹介します。

取り上げた事業の中で不明な点や、取り上げてほしい事業などがありましたら総務課秘書広報係が担当課までお尋ねください。

今回紹介する取り組み

市では合併を機に10年間のまちづくりの基本となる「松浦市総合計画」を策定しました。この計画は、平成19年度（2007年度）を初年度とし、平成28年度（2016年度）を目標年度としています。計画の中では「産業振興」であらたな活力を生み出すまちづくり」と「自然と人のぬくもりに囲まれた住みよいまちづくり」を施策の大きな柱としてさまざまな取り組みがあげられています。

その「産業振興」であらたな活力を生み出すまちづくり」の重点施策の一つに「和牛繁殖雌牛1000頭増頭計画」があります。さまざまな取り組みにより1000頭増頭を実現し、生産者所得の向上、地域経済の活性化などを目指しています。

■ 施策内容

① 畜産ブランドの確立

繁殖経営の生産体制をこれまで以上に強化するため、優良雌牛の導入と良質な子牛生産地の地位とブランドの確立に向けた取り組みを進めます。加えて収益性の高い生産体制を構築することにより畜産農家の所得向上を図ります。

② 肉用牛増頭計画の提唱

平成24年（2012年）に本県で開催される全国和牛能力共進会を視野に入れ1000頭増頭計画を提唱し、大規模経営による生産性向上と安定した畜産振興を図ります。そのため、低コスト牛舎や簡易牛舎の規模拡大を支援します。国、県事業の活用とともに市独自の制度拡充を図り、省力化された生産体制の構築に取り組んでいます。

③ 放牧の推進

高齢化する生産農家のコスト削減と荒地対策のため、多く点在する未利用野草地や休耕地、廃みかん園などを活用した放牧を推進します。

④ 耕畜連携による環境保全型農業の促進

飼料作付面積の拡大および農地集積と団地化を促し、安全で安心な松浦産畜産物を供給するとともに、飼料自給率向上を目指します。さらに、適正な管理の下で家畜排泄物の堆肥化を促進し、堆肥利用による耕畜連携での資源循環、環境保全型農業を目指します。

母うし（繁殖雌牛）の 1000頭増頭に向けた 取り組み

■ これまでの経過

平成18年に、県や農協、各地区和牛改良組合長などの関係者で構成する「和牛1000頭増頭検討会」（以下「検討会」）を立ち上げ、母うし増頭事業の事業内容の検討を行いました。

平成19年4月に農林課に専任職員を配置し、事業内容の最終的な調整を行い、検討会や6月議会で承認を受け、総事業費約3億円の本格的な事業に取り掛かりました。

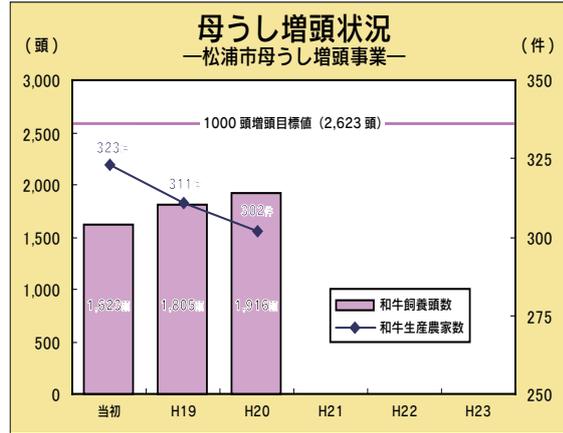
11月には、検討会を「松浦市母うし1000頭増頭推進会」（以下「推進会」）に移行し、事業の推進を図ることとしました。

平成20年には、推進会で協議を重ね事業の見直しを行い、より活用しやすいものになりました。



■現状と課題

母うし1000頭増頭事業では、平成19年度から23年度までの5年間で、繁殖雌牛1,623頭を2,623頭に増やすことを目標にしており、年平均200頭の増頭を目指して取り組んでいます。



これまで、補助金を支出した実績では、初年度の平成19年度に182頭、平成20年度に199頭、2年間で381頭増えており、約95%の目標達成率となっていますが、一方で廃業や減頭する農家もあり、延べ頭数では293頭の増頭で約73%にとどまっています。

廃業や減頭が増えている原因としては、1つに経営主の高齢化と後継者不足が考えられます。上記のグラフで見ると、2年間で21件の農家が廃業しています。今後は、後継者がいない高齢の農家に少しでも長く経営を続けてもらうための方策を講じる必要があります。

もう1つは、子牛価格の低迷です。平成19年度の事業スタート時の子牛の平均販売価格は50万円前後でしたが、現在では35万円程度、約7割に落ち込んでいます。これは、肥育農家が子牛を育てて肉にするまでの約

放牧地の提供をお願いします

牛を放牧することによるメリットは、繁殖農家以外にもあります。荒地となっている耕作放棄地などは格好のイノシシのすみかとなっていることが多いので、イノシシ排除対策にも一役かかっています。

現在市内では、約248軒の耕作放棄地（市内全体の農地の約9%）があり、これらの耕作放棄地をどう解消していくかも近年の重要な問題となっています。このような土地の管理に困っている人で「牛の放牧で除草してほしい」と思う人は農林課までご連絡ください。

20か月間に与える農耕飼料価格の高騰や牛肉消費の低迷が主な原因となっていると考えられますので、景気回復と牛肉消費拡大のPRなども取り組む必要があります。

■問題解決の一つの手段として「放牧」の推進

これらの問題を解決するための手段の一つとして放牧があります。牛を放牧すれば、放牧場の草を餌にするので、与える餌が少なくて済みまします。また、牛舎内の堆肥も増えないので、堆肥出しなどの労力も軽減できます。さらには、少ない設備投資で繁殖雌牛の増頭も可能になるため、放牧の積極的な活用を推進します。

*平成20年度中に新規の放牧を、休耕水田2カ所、1カ所、林地1カ所、4カ所実施しました。



○問合せ先 農林課

第10回全国和牛能力共進会

〜平成24年10月にハウステンボスで開催〜

和牛のオリンピックといわれる「全国和牛能力共進会」が、平成24年10月25日から29日までの5日間、佐世保市のハウステンボスを主会場に開催されます。

全国和牛能力共進会は、全国の優秀な和牛を5年に1度、一堂に集めて優劣を競う大会であり、雄牛・雌牛の和牛改良の成果を競う「種牛の部」と、肉質を競う「肉牛の部」に各道府県から選抜された約5000頭が出品されます。昭和41年の岡山県大会から、平成19年の鳥取県大会まで、これまで全国各地で9回開催されました。長崎県大会は10回目の大会となり、この機会に全国から来県される多くの人に、長崎県の風土文化や特有の食などを幅広くPRするとともに、世界遺産関連イベントや長崎国体などとも歩調を合わせ情報発信していくことになっていきます。

